

令和7年 第1回建設技術研究開発評価委員会 <議事要旨>

日 時：令和7年1月31日（金）13:00～17:00

場 所：Web 会議

議 事：

- ・総合技術開発プロジェクトについて
- ・終了時評価「建築物と地盤に係る構造規定の合理化による都市の再生と強靱化に資する技術開発」
- ・中間評価 「社会環境の変化に対応した住宅・建築物の性能評価技術の開発」
- ・追跡調査 「ICTの全面的な活用による建設生産性向上に関する研究」
- ・追跡調査 「AI技術を活用した建設生産システムの高度化に関する研究」
- ・追跡調査 「リスクコミュニケーションを取るための液状化ハザードマップ作成手法の開発」

配付資料：

- 資料1 総合技術開発プロジェクトについて
- 資料2-1 建築物と地盤に係る構造規定の合理化による都市の再生と強靱化に資する技術開発
- 資料2-2 社会環境の変化に対応した住宅・建築物の性能評価技術の開発
- 資料2-3 ICTの全面的な活用による建設生産性向上に関する研究
- 資料2-4 AI技術を活用した建設生産システムの高度化に関する研究
- 資料2-5 リスクコミュニケーションを取るための液状化ハザードマップ作成手法の開発

議事要旨：

現在実施中及び完了した計5課題について、中間評価、終了時評価、追跡調査を実施するため、外部有識者会議を開催した。委員の主な意見は下記の通り。

○建築物と地盤に係る構造規定の合理化による都市の再生と強靱化に資する技術開発

- ・技術的課題の多い杭基礎や宅地擁壁を対象とした本取組は意義が大きいと考えられる。
- ・解析や実験を交えながら研究した結果、有効な技術的知見が得られており、その成果の一部を構造関係技術基準解説書の改訂に反映するなど、業務への展開が図られている。
- ・今後は、本研究成果を実際に活用してもらうための広報にも力を入れてほしい。

○社会環境の変化に対応した住宅・建築物の性能評価技術の開発

- ・社会環境条件の変化が著しい現在、住宅・建築物に求められる性能も日々変化している。この課題に対応するべく、消費者・事業者のニーズをアンケート等によりの確に捉えて上で、性能評価項目を抽出し、研究開発を進めている点は評価できる。
- ・当初の目標は着実に実行されているようである。社会的な貢献は大きいものと評価される。
- ・現下の社会環境情勢を鑑みると、消費者・事業者のニーズは時々刻々と変化するので、研究開発期間中においても動向を注視しつつ、研究を進めてほしい。

○ICTの全面的な活用による建設生産性向上に関する研究

- ・作成された基準の活用が年々増加し、ICT施工の導入が進んでいること、作業時間短縮効果が発現していることは建設生産性向上に大いに貢献しており高く評価される。
- ・制度・基準等に反映された項目も多く、波及効果は極めて高い。
- ・ユーザーからのフィードバックを得る仕組みを充実してほしい。

○AI技術を活用した建設生産システムの高度化に関する研究

- ・現在直轄事業で普及している i-Construction・ICT 施工を支える基盤技術として、本プロジェクトの成果・取り組みも大きく貢献しているものと評価している。
- ・AI 技術を使いこなせる人材の育成と確保が今後も不可欠である。
- ・一定の成果を挙げているが、機械学習だけでも、まだまだ適用対象はある。今後の継続的な取り組みが肝要。

○リスクコミュニケーションを取るための液状化ハザードマップ作成手法の開発

- ・手引きの活用が必ずしも進んでいるとは言えない状況であるので、自治体の実状やニーズもヒアリングしながら、普及を進めるための方策を検討する必要がある。
- ・「ハザードマップ作成の手引き」や「リスクコミュニケーションの方法に関するマニュアル」の策定などが鋭意進められている点は評価できる。